産業情報論集　Vol.17（No.1）September 2020 pp.1-5
Journal of Industry and Information Science

沖縄の伝統工芸品の実用的な融合
～伝統染織物入りピック製作～

Practically harmonized traditional crafts of Okinawa
- Making pic within traditional dyeing and/or weaving -

又吉　光邦
Mitsukuni MATAYOSHI

【概　要】

沖縄には、三線（*San-Shin*）と呼ばれる伝統的な弦楽器がある。古典音楽を嗜む三線愛好家は弾く際に特異な形状をした爪（*Chimi*）という伝統的な道具を用いるが、ギターを弾く際のピックを用いることもある。本報告では、沖縄の伝統染織物入り、例えば形付入りのピック製作を目指し、合成樹脂を流してピックを作る金型を製作したのでそれを報告する。すでに日本国内でその意匠権を取得した。また、1929 年に撮影された北京の街頭で三弦を弾く際に用いられている爪とその利用方法について合わせて報告を行う。

【Abstract】

San-Shin is a popular traditional stringed instrument in Okinawa district. Enthusiasts of playing *San-Shin* use a small unique traditional tool called *Chimi,* especially when they play traditional *San-Shin* music in Okinawa. However a pic of guitar is used sometime recently. In this paper, a pic within traditional dyeing and/or weaving of Okinawa such as *Katachiki* which is formed of synthetic resin is reported. The copyright in registered design in Japan has been obtained already. And a unique sort of *Chimi* and its usage which are shown in an old film recorded at a street of Beijing in 1929 are also reported.

【目　次】

はじめに
1. 三線とそれを弾く道具
2. 意匠権
3. ピックの金型設計と製作
4. ピックの製作
5. 今後の課題
謝辞
参考文献

はじめに

沖縄県には古くから愛されてきた弦楽器の三線がある。三線を使った楽曲や歌は、現在でも沖縄で作られており、それらは琉球民謡やポップスとよばれ、琉球王朝時代からあった楽曲、すなわち古典音楽と区別されている。

三線を弾く道具は、一般的に爪という小さな、大きさにしてはやや重い道具を用いることが多いが、琉球民謡やポップスではピックを用いることも多い。弦を弾く道具を持っていない事態に備えて自分の爪を伸ばしている人もいる。報告者は三線の爪を合成樹脂を用いて作成し、意匠登録番号第１５１８２８５号（三線の爪）を取得したが、あわせて、同様の手法で製作するピックの意匠（意匠登録番号第１５２６８２０号）を取得した。本報告では、意匠登録した手法を用いてピックを作るための土台である金型について報告をする。また、後半に、研究の過程で知りえた1929年中国南方で三弦（中国では、三線ではなく、三弦と記す）の映像から、使用されている爪について考察を行う。

１.三線とそれを弾く道具

沖縄における三線の起源については、文献[1][2]に詳細に示されているので、それを参照されたいが、簡潔に述べれば、1500年初頭までには、沖縄島では広く三線が普及し始めていたと考えてよい。その後、日本へと渡って三味線として独自の発展を遂げる。

一方、三線を弾くときに用いる道具の爪（*Chimi*）の伝来はよくわかっていない。おそらく、もともと三弦という楽器を弾くために作られていたと考えるなら、三弦がもたらせられたのど同時に弾くための道具の爪も一緒に伝来したと推定してよいであろう。

文献[2]より、中国で三弦と呼ばれる楽器を弾くための爪についていくつかの報告があるが、それによれば、爪の詳細な形状は異なるものの、基本的に人差し指を差し込んで使うタイプのもので、沖縄で現在も利用しているものと大して変わらないように思える。労をいとわず、文献[2]より爪の使用が認められる図を次の図１（オリジナルは文献[3]）、図２（オリジナルは文献[4]）に示す。ただし、地名は今回初めて付している。

図１　大理

図２　重慶

図１、図２より、人差し指に爪を嵌めて蛇皮の張られた三絃を弾いていることがわかる。図２の重慶のものは細長いこともわかる。図２の奏者は、脚注に示すように詳細が明らかとなっている[1]。

1　赵牧阳，1967年出生于宁夏中卫，中国内地摇滚歌手，鼓手。演奏した場所は、重慶の龙塘村。

重慶の赵牧阳の爪の画像の補足として、次の図３に加えて２つ示す。

図３　重慶　補足図

図３からわかることは、やや曲線を描いた細長い形状の爪であり、付根部分には表側の見える箇所、すなわち図中の矢印の向きにやや飛び出した加工のあることがわかる。

次の図４に示すのは、1929 年の北京の街頭で演奏[2]されていた三絃の指の部分の拡大図である。爪の形状は、先に図２、図３で示した重慶の演奏者の爪にも似ているが、むしろ文献 [2] で示した著者所有のベトナムの爪の形に酷似していると言える。

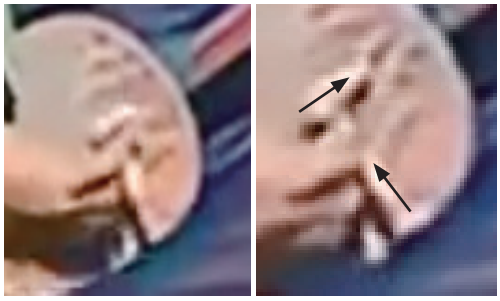

図４　1929 年北京街頭での三弦演奏

余談であるが、胴の部分に張られているのは蛇皮のようである。

ここで興味がひかれるのは、この演者は親指と中指の二ヶ所に爪を嵌めて演奏していることである。図４は静止画のためわかりにくいかと思うが、実際の動画では、明らかに２つの爪を嵌めて演奏していることがわかる。

図４の右図の中の二つの矢印は、爪の先端に向けてある。著者がベトナムホーチミンで購入した爪（左側）を図４と同様の配置で嵌めてみたのが図５の右側であるが、似ていることがわかるであろう（動画で見ると一目瞭然なのだが、静止画では判りづらい）。

図５　ベトナムの爪（著者蔵）

ところで、琉球へ伝わった三弦は、三線と記されるようになった。そして琉球から日本へ伝わった三線は、蛇皮の代わりに猫の皮を用いた三味線へと変わり、弾くための道具は撥と呼ばれる独特なものへと変化した。日本に渡った三線は、沖縄と異なり民衆の間で広まるということはなく、能などの芸能においてその存在感を示している。

２．意匠権

本報告書では、沖縄の伝統的染織品を内側に入れて弦楽器を弾くためのピックを合成樹脂を用いた制作について報告するが、その前に、意匠登録番号第１５２６８２０号（ピック）について説明する。

意匠権に係る物品は、透明な樹脂と模様

2　AI を用いてカラー化されている記録動画。文献 [5]。

（文字を含む）のあるシート状の部材により作られる弦楽器を弾くためのピックである。それは、透明な樹脂とシート状の部材からなり、シート状の部材には模様が装飾され、模様の着色部分は透光性を有する。本物品は、透明な樹脂を用いることにより模様を視覚できるので、個人の嗜好にあったピックを選ぶことができ、楽しく弦楽器の演奏ができるものである。沖縄県では、伝統的染織産業が衰退しているが、布の端切れを用いて作れる提案のピックを製作すれば、付加価値の高い商品とし、沖縄の伝統的染織産業に少しでも寄与できるのではないかと考えている。

３．ピックの金型設計と製作

ピックの金型は私の原案（図６）を元に、金型造りの観点と樹脂の流し込みの観点を考慮に入れて、ものづくりネットワーク沖縄の山里将さんが設計図（図７）に起こし、いくつかの調整を経て後に、アルミニウムを用いて金型として製作していただいた。次の図８が金型のイメージの全体像であり、図９が金型そのものの画像である。

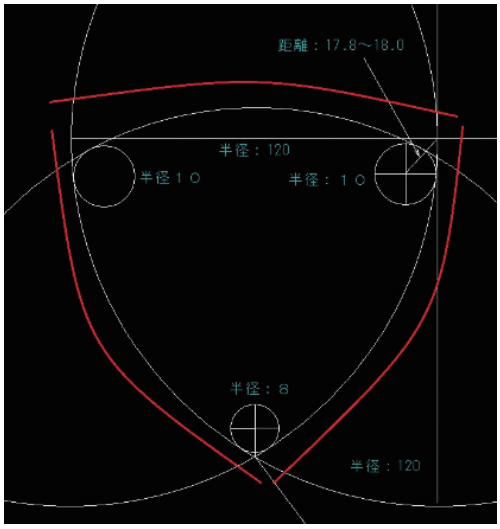

図６　ピックの原案図

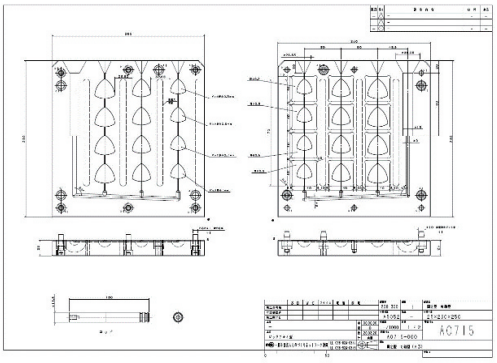

図７　ピックの設計図

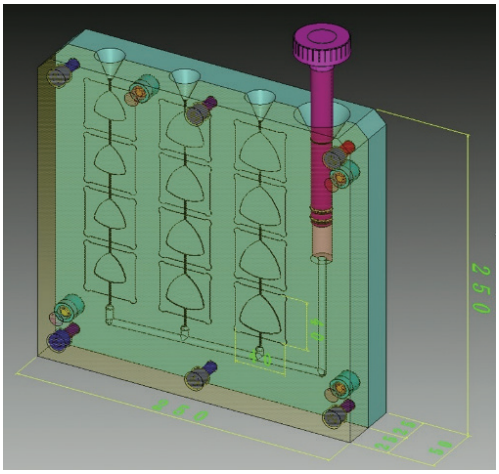

図８　ピック金型のイメージ図

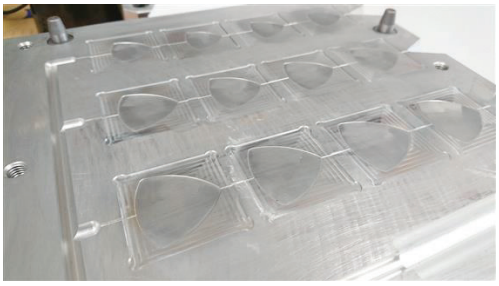

図８　ピック金型の実物（半面）

４．ピックの製作

図９に示すのが､模様色彩のある形付（紅型）を実際に作ってみたピックである。見た目にも美しいピックといえるのではないだろうか。

シート状のものに沖縄の伝統的染織物で

図９　形付（紅型）入りのピック

ある形付（紅型）だけでなく絣を入れたものや首里織などの各種伝統的な染織物を入れて作れば、「沖縄の伝統工芸品の実用的な融合」(2019 年度その他特別研究）に適っている。また、現在進行中である「観光資源として生かすための八重山諸島群の伝統染織物についての研究」（16K02101）にも援用可能である。提案するピックの安定した生産ができれば、三線などの伝統音楽を弾く道具とともに、染織産業やさらに観光産業にも若干ではあるが貢献できるものと考えている。

ところで、心配していたピックの硬度も一般に売られているものとほとんど変わらない作品ができた。

５．今後の課題

今後の課題としては、気泡の除去であろう。脱泡機を用いれば、気泡は除去できると思うが、ピックの厚みに比べて布の厚みが厚いため、樹脂が金型から流れ出てしまう現象が想定できる。今後、樹脂の流し込み方などについて考慮する必要がある。

謝辞

本研究は、本学のその他特別研究費（2019 年度）により行われた。また、文科省の科研（16K02101）での知見も取り入れられている。ピックの金型を製作するにあたり、一般社団法人 ものづくりネットワーク沖縄、エンジニアリング部、設計開発グループの山里将さんには、非常にお世話になった、この場をお借りして御礼申し上げたい。

投稿受付日：2020 年 7 月 17 日

投稿採録日：2020 年 7 月 31 日

参考文献

[1] 又吉光邦 , “『沖縄の三線』に記録された沖縄三線の統計的特長 ”, 産業情報論集第 6 巻第 1 号 , pp.33-45, 2009.9.

[2] 又吉光邦 , “ 三線の爪の金型の改良 ”, 産業情報論集第１６巻第１・２合併号 , pp.103-107, 2020.3.

[3] 中国大紀行製作委員会（JALUX，他）『中国大紀行 DVD 第 6 巻 少数民族の小宇宙』、2005.

[4] https://www.bilibili.com/video/av4091344/（赵牧阳行走重庆 三弦弹唱 宁夏川 , 秦腔血泪仇 , 豫剧花木兰, 信天游等），2016.3.

[5] https://www.facebook.com/tsewaii/videos/402029580755887（1929 年民國北京（北平）。北京街頭表演 三人彈唱 京韵大鼓，街頭唱雙簧表演（真正北京話）現場收音珍貴影像記錄）。